

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年12月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472500887		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	広島県東広島市西条町寺家7429番地 (電話) 082-424-8801		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3472500887-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・好縁会生活づくり10か条 ①「まず座る」 ②「食事は座って自分で食べる」 ③「排泄は自分でしたいもの」 ④「着替え、入浴、身だしなみ」 ⑤「用具の活用」 ⑥「意欲を出してもらおう」 ⑦「すること、会う人、行くところ」 ⑧「心が動けば身体も動く」 ⑨「閉じこもらない、こだわらない」 ⑩「生活行為に勝る訓練なし」</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>このホームでは、職員全員がいつも笑顔で接し、笑顔のある楽しい生活を入居者が送ることを目指し、実践している。また、普段自分の意思表示が出来ない方々の思いを汲み取ることが大事と考え取組んでいる。職員は、朝夕の出勤時に必ず一人一人の顔を見て握手し、スキンシップを通して、友好を深め身体状況を把握をしている。ホームを一つの家庭と考え、入居者の個別のケアでは、毎日の決まったスケジュールをこなすのではなく、本人の思いに気付いて臨機応変に対応している。また、朝作る味噌汁の匂いで、体内時計が働き、朝と認識し、目覚め、お腹も空いてくると考えている。このホームでは、食事作りは五感を働かせる一つの重要な事であり、献立・買物・調理の手伝い等のうち、本人に出来ることを職員と一緒にし、少しでも本人に関わってもらえるような支援ができるよう努力している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念と共に、事業所独自の理念・目標を掲げ、朝礼時に唱和しながら、常に意識している。	法人の理念と生活づくり10か条をホームの原点とし、ミーティング時に個別のケアを考えたり改善する際、目標が原点に沿っているか、介護の方向性が間違っていないか職員間で確認し合っている。年間目標を設定し、達成度を評価している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	普段の活動や生活の様子について、定期的に広報誌を発行、近隣施設に送付している。また、夏祭り等行事案内をしている。近所の方に職員からあいさつをする様指導したり、運営推進会議に地域の代表の方に参加いただいている。	町内会には加入していないが、地域のイベントには積極的に出て行き、地域と交流している。ホームの敬老会には地域のボランティアの演奏もあり、近所に声掛けし、家族と一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部からの要望があれば、認知症に関する勉強会等を行っているが、今年度は実施していない。今後も要望があれば積極的に開催したい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を回覧し、全職員に通知し、ミーティングを通して、サービス向上に反映するようにしている。会議内容については、各家族にも通知している。	出席者が和気あいあいと交流しており、ホームで行われる敬老会に行政担当者も来てもらうきっかけとなっている。地域の情報を共有したり、家族から介護制度に関する質問があった場合には、行政担当者に説明してもらうこともある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議等、定期的に市の職員と交流を持っている。また、市からの見学も受け入れている。	100万人オレンジキャラバンメイト（認知症サポーター）養成講座に講師として協力している。市の担当者とは話し易い関係作りが出来ていて、ホームの問題について相談し解決している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>月に一度介護アドバイザーを招き、研修を行ったり、内外の研修を通して、身体拘束に対する理解を高めている。また、昼夜間での安全目的以外での施錠は行っておらず、玄関も開放している。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては、新人研修時に説明し、職員は定期的な研修で再確認している。本人の希望を無視することも身体拘束ととらえ、職員に理解してもらうように努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修会などへ、積極的に参加し、その後事業所において勉強会、伝達研修等を開いている。またヒヤリハットなどを通して、小さな事でも見過ごさない体制作りをしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職員同士で情報交換をすることはあるが、学ぶ機会は十分ではない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に説明し、同意を得ている。また、家族会等を開催し書類と一緒に解説しながら、不安・疑問点に対応した説明を行い、理解を深めるよう努力している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者が話しやすいよう利用者目線での傾聴に努めている。事業所に苦情処理担当を設けたり、電話や面会時にご要望をいただき、速やかに朝礼等で全職員に到達している。ミーティングを通して話し合い、改善している。</p>	<p>サービス向上のためのアンケートをホーム独自で行い、家族に結果を報告し、職員間で話し合い、改善点を見つける努力をしている。家族会も兼ねた敬老会での意見を反映し、改善に向け努力している。苦情については、プロセスを踏んで対応しており、職員全体で共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>責任者会議や普段のミーティング、普段の会話などから、意見や提案など取り入れるよう努めている。</p>	<p>A棟B棟でのユニット毎の月1回のミーティングでは、職員からの意見をリーダーが聞き、管理者に報告し改善している。改善された一つの例としては、「水分摂取量の見直し」で、職員で話し合い、工夫をしながら検討・実践しているところである。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>チャレンジシートの導入で、個人の目標やその成果、それに応じた評価を行い、職場環境・条件の整備に努めている。また、法人内におけるマイスター試験を実施し、職員の向上心を発揮できる体制をつくっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>新人研修やスキルアップのため、法人内外の研修に積極的に参加している。また、法人内のマイスター試験の導入等、職員の力量も把握するよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内の他グループホームとの連絡会議や研修会等での情報交換、他法人の同業者との電話での空室状況の確認・パンフの配布等はあるが、訪問等交流を深めていきたい。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者の担当を決め、日常生活に積極的にかかわり、信頼関係を築ける様努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話や面会、手紙、アセスメントなどを通して、できるだけ受け止める努力をしている。また、事業所に対して、アンケートを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護支援専門員を中心に適正な社会資源の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日頃から、野菜の皮むきや食器洗い、洗濯畳みなど一緒に行い、家庭の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時の対話や、電話連絡、毎月手紙を送っている。また、事業所内の行事にも参加いただけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人や、親戚の方が面会に来られたり、歯科等かかりつけ医への受診。地元にお墓参りに帰られるなど、家族の協力を求めながら行っている。	今までの馴染みの歯科医や美容院などへ行けるように、また本人からの要望を汲み取って家族に伝え家族に支援をお願いしている。これまでに、入居者の会話の中で、昔の知人に会いたいとの希望を実現させた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しがちな利用者をリビングにお誘いしたり、利用者間に職員が介入することで、関係が築ける様支援している。また、アクティビティの機会を利用し交流の場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	季節の挨拶状をお送りしている。また利用終了後のご家族の訪問もあり、開放的な施設づくりを目指している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを通して、家族や本人の想いを把握し尊重している。意思疎通困難な方の想いの尊重は難しいが、生活暦や、日頃の表情等から汲み取るよう努力し、家族の想いと共に意向の把握をしている。	些細な表情の変化からも本人の意向を汲み取る努力をしている。毎日の会話に中からも呟かれた言葉を大切にしている。	職員は、思いや意向を日常的に汲み取り、職員間では口頭で伝え共有している。しかし、今後は入居者のつぶやきを記録するノートを作り、入居者の思いを職員全員で共有し、話し合いを行い、入居者の思いを実現するよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味などをお聞きし、入居前の住環境に近づける様努めている。また、なじみの家具など、お持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事時間など、大まかな目安は決めてあるが、起床時や、昼間の休み時間、入浴の有無など、個人のペースに合わせ心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>面会時や介護計画説明時にご家族の意向も合わせてお聞きし、職員との検討を加えた上で、アセスメントシートや介護計画書を用い、ケア担当を中心にニーズの把握をしている。</p>	<p>モニタリングは、入居者其々の担当者が行い、カンファレンスで報告し、職員全員で話し合い、家族の意向も盛り込み、ケアプランを作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日誌や生活記録のほかに、栄養アセスメント等を行い、日々の変化を記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>空床の場合、ショートステイとしての利用が可能。また、軽度の方の利用の受け入れも介護予防の事業として、体制作りができた。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>敬老会などの行事にはボランティアによる色々な催しを行っている。また地域で参加される行事などにも出来る限り参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体法人クリニックと24時間連携している。また、他の科に受診の場合、往診に来ていただいたり、紹介状にて通院されている。</p>	<p>母体法人の協力医が入居者全員の主治医であり、入居者の身体状況を把握している。通常は協力医に連絡し対応しているが、日曜・祭日・夜間は待機ナース制度のナースが対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	医療連携加算を行っており、より密度の高い支援をしている。週に1回、母体法人の看護師が当事業所に来られ、状態を把握している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	常に医療機関と連携している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	医師、看護師、家族、職員でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針など話し合い、支援できるようにしている。	家族の希望があれば看取りを行う方針である。実際に重度化した場合には医師・家族・職員で話し合いをして、適切な対応を行っている。その支援としては、訪問ナース制度を利用し、職員と一緒に支援を行うものである。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	急変や事故時に夜間待機ナースに連絡が取れるシステムを導入している。応急手当や初期対応に関しては、主治医より指示がでている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署の職員の方からの協力の下、利用者・職員で避難訓練をしている。	隣接する関連施設との間で「避難場所として利用する」協力関係が出来ている。緊急連絡体制も出来ており、これまで消火に重点を置いた取り組みを行ってきた。地域との協力関係を模索している。	ホーム独自の取り組みとして、災害時における入居者の避難誘導のマニュアルを作成し、自主的に訓練も行い、災害に備えていただきたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格を尊重した、言葉掛けや支援を行っている。	年1回の研修で確認している。職員は基本的なところは理解出来ているが、入居者の状況に応じた適切な言葉掛けやその人に適した対応が出来るように努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	最後には自己決定ができるような言葉掛けを意識している。また、拒否される事に関しては強要しない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者個々のペースに合わせるよう心がけている。散歩など望まれたとき、一緒に外出できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	必要に応じて、家族に衣類等の補充や、理髪店に依頼し、理髪の出張サービスにて対応している。また、その日の洋服などは声かけをしながら、自己決定を促している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきなど、職員と一緒にいったり、会話しながら一緒に食事を楽しんでいる。メニューに関しては、入所者の好きなものや、食べやすい物を取り入れるようにしている。	ホームを一つの家族とみなし、入居者と一緒に食事を作り、一緒に食事を楽しむことが重要と考え実践している。また、入所者一人一人に応じた手伝いを行っている。誕生日会では、ケーキの飾りつけを一緒にしたり、時には外食をすることでいつもと違った楽しさを感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスや量など，栄養士の指導の下，適切に確保している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，義歯洗浄，うがい，ハミングッドを使用し，口腔ケアを行っている。また，内部研修にて，適切な口腔ケアの仕方についての研修を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを考え，時間を目安にトイレ誘導をしたり，入所者が醸し出すサインなど見過ごさないよう，努力している。</p>	<p>「オムツをはずし，トイレで排泄することが大事である」との法人全体の共通方針により，このホームでも，職員全員で努力している。トイレ誘導を行い，トイレで排泄をしている。100歳の方も布パンツで頑張っておられる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>本人の排泄リズムを把握し，医師と連携しながら，適度な運動，消化の良い食事，牛乳や水分などの摂取に配慮している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間は完全に自由とはいえないが，体調や気分によって順延する等対応している。</p>	<p>毎日お風呂を沸かし，入浴に対応している。通常の入浴は午後であるが，毎日の入浴希望にも対応可能で，夜間の希望があれば，8時以降に対応することもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	その日の状態などにより、昼夜逆転することもあるが、日中適度な運動を行うなど努力している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	服薬は職員が管理している。処方の際は、医師・薬剤師から説明を受け、服薬の際にも確認し、飲み込まれるまで見守っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	洗濯畳や掃除など個々に合わせた形で役割を担っていただいている。また、一緒に外に散歩にでかけたり、花壇に花を植えたりして気分転換の支援をしている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	頻繁ではないが、花見や紅葉狩りなどの季節の行事、その他日常生活でドライブに行ったり、近くのスーパーに買い物に行ったりしている。	通常的外出は、近所の散歩や食材の買い出しに行っている。車椅子対応の車を使って外出支援もしており、皆でドライブを楽しむこともある。希望があれば、本人の買い物に職員で同行している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	家族管理を基本とし、面会時など所持金を確認していただいている。個々の力量に応じて、保管管理できるように図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	出来る方にはいただいているが、十分ではない。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	いずれにも段差がなく、カーテンの色などにも配慮している。また、季節に応じて壁画を貼ったりと季節感を演出している。	季節の飾りつけがホームのあちこちで見受けられる。入居者の皆さんの様子を見ながら、温度管理がされており、掃除や清潔が行き届いている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファや和室を利用している。冬にはこたつを設置する事もある。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室には本人の馴染みのものを置いている。また、思い出の写真など飾っている。	入居者本人や家族の希望があれば、家具などの持ち込みはほとんど可能であり、限られた場所ではあるが、馴染みの品等の持ち込みで居心地の良い工夫がされている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	個々の力や能力を生かし、無理のない自立支援を行っている。また、トイレや居室などは、分かりやすく大きく表示したり、夜間は足元灯を設置したりとできるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい

作成日 平成25年4月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居者の日常での会話を書き留める用紙が無い為、スタッフの記憶の中でしか留まっていない。	日常会話で得た情報を個人だけの情報ではなくスタッフ全員が把握出来るようにする。	個人の会話など、記録出来るノートを作り、全員に周知出来る様にする。	2ヵ月
2	35	ホーム独自の避難誘導がない為、現場がマニュアルを見て想像しにくい。	現場に即したマニュアルを作り想像しやすくする。(特に夜間帯)	法人のマニュアルを現場の名称等入れるなど現場に即した物を作成する。また、それに準じて訓練を行う。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。